

令和2年度 学力向上研究指定校事業第2回連絡協議会・報告資料

令和2年度 of 取組の概要

学 校 名	大和町立吉田小学校	主な取組教科	算数科
研 究 主 題	確かな学力を身に付けた児童の育成 —自ら進んで考え、伝え合う力を育てる算数科の授業づくりを通して—	研究年次	3 / 3年次

1 今年度の主な学力向上の取組と成果

学力向上の取組	成 果	評価の根拠
【視点1】考えをつないで学びを深めさせる工夫 ① 伝え方や聞き方の工夫	基本的な伝え方・聞き方を示し段階的に取り組むことで、自信をもって考えを伝える児童が増えた。	「自分の考えを進んで発表できる」と答えた児童が66%から73%に向上した。
【視点1】考えをつないで学びを深めさせる工夫 ② 教師の働き掛け	児童の考えをつなぐ発問や指示を工夫することで互いの考えのよさや違いに気付ける児童が増えた。	「友達の考えを参考にしたり、新しい考えに気付いたりできる」と答えた児童が68%から86%に向上した。
【視点2】本時の学びを実感させる振り返りの工夫 ① 児童の考えや言葉を生かした学習のまとめ	児童の考えの発表時の言葉を生かしてまとめを行うことで、学びを実感できる児童が増えた。	「自分の考えを言葉や図、式などを使って書くことができる」と答えた児童が82%から89%に向上した。
【視点2】本時の学びを実感させる振り返りの工夫 ② 本時の学びを生かし、言語化させる工夫	振り返りの観点を与えることで、本時の学習内容のポイントを意識できる児童が増えた。	「振り返りは自分の学習の役に立っている」と答えた児童が76%から89%に向上した。

2 残された課題・要因と今後の方向性

課題・要因	今後の方向性
児童の考えのつなげ方や児童の言葉の引き出し方がうまくいかないことがある。	児童からどんな言葉を引き出せば本時のねらいに迫ることができるのか、教材研究をしっかりとしていく。
自力解決から集団解決までに時間が掛かりすぎるあまり、振り返りに十分な時間を確保できなくなってしまうことがある。	教員の話す内容や発問の吟味を行うことで、児童の学び合いの時間を確保していく。